

東日本大震災の被災地に対する義援金募金などのご報告

ドトール・日レスホールディングスでは、傘下事業会社であるドトールコーヒー、日本レストランシステム、D&Nコンフェクションリー、D&Nカフェレストラン、サンメリーの運営する約1,900店舗（一部除く）において、東日本大震災の被災地に対し3月16日より募金活動を実施しております。

このたびの募金活動においては、多くの皆様方のご協力を賜り、9月までの募金総額は38,960,646円となりました。皆様方の温かいご支援に心より感謝申し上げます。当社では皆様方からお預かりいたしました募金を日本赤十字社に順次お届けし、被害にあわれた皆様のご支援及び復興支援活動などにお役立ていただきます。

被災された皆様方に対し、心よりお見舞い申し上げるとともに、皆様の安全と平穏そして一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

● 義援金総額 ●

3月～9月末までの募金総額	38,960,646円
弊社義援金	50,000,000円
サンメリー復興パン募金	1,754,680円
義援金総額	90,715,326円

支 援 活 動

ドトール・日レスホールディングスでは、大変微力ではありますが、震災当初の被災地における無料のコーヒー提供や炊き出し活動のほか、現在もドリップコーヒーやアイスコーヒーの支援物資の提供など復興支援活動を継続しております。



当社では今後も支援活動を継続してまいりますので、皆様方の温かいご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

株式会社ドトール・日レスホールディングス
URL [http：//www.dnh.co.jp](http://www.dnh.co.jp)

本社 東京都渋谷区猿楽町10番11号
TEL 03-5459-9178（代表）

DOCTOR

株式会社ドトールコーヒー
www.doutor.co.jp

NRS

日本レストランシステム株式会社
www.n-rs.co.jp

UD FONT
by MORISAWA

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



適切に管理された森林資源を用紙の材料にしています。



VOC（揮発性有機化合物）の発生が少ない、ベジタブルインクを使用しています。

DNREPORT Vol.8

株式会社ドトール・日レスホールディングス
2012年2月期 第2四半期報告書



CONTENTS

巻頭特集	
ドトール・日レスグループの海外展開	1
連結決算ハイライト	5
マネジメントメッセージ	6
事業別の概況	9
連結財務諸表	10
トピックス・ア・ラ・カルト	11
会社概要	15
株式情報	17

グループの経営資源を最大限活かし、グローバル展開を本格化

成長著しいアジア市場。ドトール・日レスホールディングスは、日本で培ったさまざまなノウハウをもとに、アジア市場を中心に海外での事業展開を拡大してまいります。

アジア地域の状況

アジア各国は、日本と異なり若年層の割合が多く、かつ人口が着実に増加しております。インフラ整備も急ピッチで整いはじめ、デジタル製品なども市民生活に浸透しつつあり、経済成長は著しいものとなっております。特に、都市人口は急増しており、都市部の生活水準は国の平均を大きく上回ることが多く、その消費力は一段と高まりつつあります。また、アジア各国の外食比率は総じて日本より高く、市場の拡大が当面継続することが予想されております。

「世界の工場としてのアジア」から「巨大消費市場としてのアジア」へと急速に変貌している状況の中、ドトール・日レスホールディングスではグループが持つ経営資源を最大限活かし、リテールビジネスのグローバル化を本格的に推進してまいります。



■ ■ ■ ■ 当社グループ海外事業の現況 ■ ■ ■ ■

● レストラン事業

シンガポールで現地外食企業を子会社化、中国上海にも進出

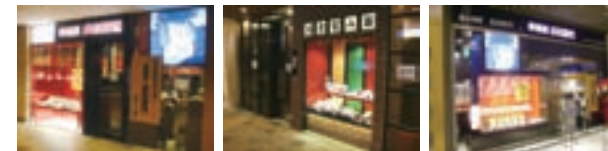
昨年11月、シンガポールに洋麺屋五右衛門を海外初出店。現地のお客様に大変ご好評を頂き、順調に推移する中、当初業務提携をしていたThe Asian Kitchen Food Company Pte Ltd.を子会社し、シンガポールでの営業基盤の確立と事業展開の加速化が進展しております。

シンガポールでは8月末現在、Asian Kitchenが運営していた中華業態9店舗と洋麺屋五右衛門2店舗を運営しておりますが、今期さらに5店舗程度の新規出店をいたします。今後は、店舗の拡大と多業態展開を図り、シンガポールにおけるレストラン事業の確立を目指してまいります。

また5月には、洋麺屋五右衛門の中国1号店および洋食寅八軒の2店舗を上海ヒルズに同時オープンいたしました。当社グループの中国進出は初めてで、フィージビリティ・スタディを兼ねた出店となりますが、中国における

お客様の反応を見ながら、事業基盤の確立を図ります。

レストラン事業においては、洋麺屋五右衛門を中心に、今後シンガポールや中国に限らず、アジアを中心とした他国への進出を図り、海外事業の本格的な店舗展開を目指してまいります。



● 卸売事業

韓国国内のコーヒー飲料事業は順調に拡大、台湾においても事業を本格化

2009年7月、韓国No.1乳業メーカーである「ソウル牛乳協同組合」とドトールコーヒーが業務提携し、韓国国内におけるコーヒー飲料事業の展開をスタートいたしました。

ドトールコーヒーのブレンド&焙煎技術とソウル牛乳のセールス&マーケティング力を活かしたマーケティング・ミックスを展開し、チルドPET飲料を中心に商品展開することで、順調に韓国のコーヒー飲料市場のシェアを拡大しております。今後も定番商品の販売拡大と新商品の継続的な投入を図ります。

また3月より、台湾統一グ



ループの子会社であるTait Marketing & Distribution Co., Ltd.との間で商標ライセンス契約を締結し、台湾においてドトールの商標が付されたチルドカップコーヒー飲料の販売を開始し、順調に販売を拡大しております。

コーヒー飲料事業の海外展開は、韓国に続き2カ国目となりますが、今後もコーヒー飲料事業の海外展開を拡大し、一層の業容発展を図ってまいります。

● カフェ事業

台湾のドトールコーヒーショップを直営化、本格的な店舗展開を

台湾におけるドトールコーヒーショップの展開は、これまでフランチャイズにて運営をしておりましたが、このたび台湾における店舗運営を直轄事業とすることを決定いたしました。10月に、D&Nインターナショナル100%出資の現地法人を設立し、ドトールコーヒーショップの新規出店の拡大を図ります。

今後、台湾現地法人ではカフェ事業に限らず、グループ業態の新規出店も検討し、台湾におけるグループ全体の事業確立を目指し、本格的な多業態店舗の拡大を図ってまいります。



新子会社【D&Nインターナショナル】設立 リテールビジネスのグローバル化を本格的に推進

海外リテール事業における戦略立案から推進までを一元管理。
海外におけるカフェ、レストランなどの多業態展開を推進いたします。

グループの経営資源を最大限に活かし、 戦略立案から推進までを一元管理

このたび、グループ全体の海外事業を統括する100%子会社「D&Nインターナショナル株式会社」を設立いたしました。同社ではグループにおけるリテールビジネスのグローバル化を本格的に推進し、ホールディン

●新会社の概要

会 社 名	D&Nインターナショナル株式会社
取 締 役	代表取締役社長 星野 正則
取 締 役	大林 裕史
取 締 役	木高 毅史
監 査 役	郷井 義郎
監 査 役	宮林 哲夫
資 本 金	5千万円（当社 100%出資）
設 立	平成23年8月3日
決 算 期	毎年2月末日
事業内容	グループ全体の海外事業における最適化を図るための企画・運営・管理等を行い、グループ全体の海外事業の経営を統括する
所 在 地	東京都渋谷区

グスの持つ経営資源を最大限活かすことで、海外事業における戦略立案から推進までグループ全体を統括していきます。

この設立にあわせ、日本レストランシステムが運営していたシンガポールおよび中国上海の現地子会社をD&Nインターナショナルの傘下に変更し、またドトールコーヒーが運営していた台湾のフランチャイズ店を直轄事業とするため、台湾にD&Nインターナショナル100%出資の現地法人を設立いたしました。

現在の店舗運営状況は、シンガポールにおいて、洋麺屋五右衛門や連結化したThe Asian Kitchen Food Company Pte Ltd.の中華業態を中心とした店舗など11店舗、中国上海に洋麺屋五右衛門など3店舗、台湾にドトールコーヒーショップ2店舗の合計16店舗となっております。今期においては、シンガポールで5店舗程度の更なる新規出店を行い、多店舗化を図るとともに、アジアを中心とした他国への出店調査を継続する予定であります。

今後については、早期に50店舗程度まで規模を拡大させることを目指し、シンガポール・中国・台湾などにおける店舗展開の拡大と多業態運営を図るとともに複数の他国への進出を図ってまいります。

レストラン事業のシンガポール展開

The Asian Kitchen Food Company Pte Ltd.を連結化

The Asian Kitchen Food Company Pte Ltd.

The Asian Kitchen Food Company Pte Ltd.は、2005年設立のレストラン運営を事業とするシンガポールの企業です。The Asian Kitchen Dragon-InnやLa Mian Xiao Long Baoなど、中華業態を中心にシンガポール国内でレストラン9店舗を運営し、2010年度の売上は約8億円となっております。同社とは、2010年2月に日本レストランシステムとの間で業務提携の基本合意を締結した後、洋麺屋五右衛門の海外1号店を出店するなど、シンガポールにおける事業展開を順調に行っておりま

その後、シンガポールでの事業を拡大するため、同社株式の90%を取得し子会社化することで、営業基盤の拡充と事業展開の加速化を目指すこととしました。また、現在ではAsian Kitchenが運営していたセントラルキッチンを有効利用し、当初日本から輸出していたソースなどの食材をシンガポールで製造し、効率化の促進を図り、着実にシナジー効果が生まれております。

今後は、同社が持つシンガポールでの飲食業ノウハウや現地の人材を活かし、レストランだけに限らずカフェを含めたさまざまな業態をシンガポールで展開し、一層の業容の拡大にまい進していきます。



Asian Kitchen Food社のWEBサイト



<http://www.theasiankitchen.com.sg/>

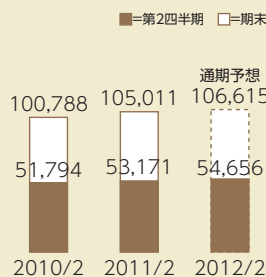
代表取締役会長 山内 実 代表取締役社長 星野 正則

第2四半期のポイント

- 震災の影響による消費減退を受けながらも、増収を確保
- コーヒー豆など原材料の高騰により、粗利が大幅減
- グローバル化を本格的に推進。海外への店舗展開を拡大
- 1株当たり13円の間配当を安定的に継続

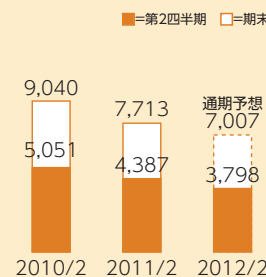
連結売上高

54,656
百万円
(前年同期比)
2.8%増



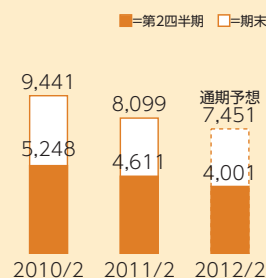
連結営業利益

3,798
百万円
(前年同期比)
13.4%減



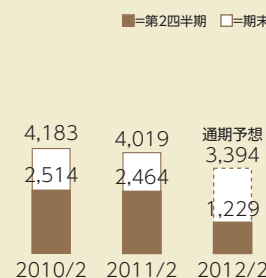
連結経常利益

4,001
百万円
(前年同期比)
13.2%減



連結四半期純利益

1,229
百万円
(前年同期比)
50.1%減



国内既存事業の安定成長とグループシナジーの実現、そして海外事業展開の拡大による成長加速へまい進いたします

ごあいさつ

株主の皆様方におかれましては、平素より当社事業への格別のご支援とご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、中東での反体制デモ、欧州の債務問題の再燃、米国債の格付けの低下などの不安定な海外要因による資源価格の高騰や円高に加えて、3月11日に発生した「東日本大震災」と福島原子力発電所の事故により、風評被害や電力供給の制約などが生じ、混乱と停滞を余儀なくされました。

外食業界におきましても、従来の生活防衛意識に加え、震災による消費の自粛ムードの広がり、ユッケ食中毒事件による消費者の不安の増大、さらにはコーヒー豆をはじめとした原材料価格の上昇により厳しい経営環境で推移しました。

このような状況下で、当社グループは、「外食業界に

おける日本一のエクセレント・リーディングカンパニー」の地位確立を目指し、立地を厳選してグループ全体で25店舗（直営店舗17店舗、加盟店舗8店舗）を新規に出店するとともに、ブランド価値の向上策、業務の効率化、新規業態の立ち上げ、新メニュー開発など既存事業の強化に努めました。新たな取り組みといたしましては、海外事業の一層の拡大のためにシンガポールの業務提携先企業を子会社化した他、中国上海に初めて出店しました。また、事業会社ごとに行っていた海外事業を一元的に管理し、スピード感を持って事業展開できるように100%子会社「D&Nインターナショナル株式会社」を設立しました。

当社グループでは、国内既存事業の安定成長とグループシナジーの創出、そして海外事業展開の拡大による成長加速にまい進し、グループ全体の企業価値増大を目指してまいります。株主の皆様方におかれましては、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

既存店の状況についてお聞かせください

前年対比第2四半期累計で、ドトールコーヒーが売上で△4.5%、客数で△4.2%、日本レストランシステムが売上で△1.0%、客数で△0.2%の結果となっております。

既存店がマイナスした主な要因は、東日本大震災や電力事情により3月および4月の業績が大きく落ち込んだことにありますが、カフェ部門については昨年夏のキャンペーンの反動や天候要因などもあり、既存店の回復が遅れている状況にあります。今後は、新商品のメニュー開発や接客サービス向上、店舗でのプロモーション活動、インテリアの改善などに力を注ぎ、既存店の業

績回復に努めていきます。

一方、レストラン部門においては、2月に約3年ぶりに既存店前年比が100%を超えてから、順調に業績が回復しております。3月および4月は震災の影響を受けたものの、5月以降も既存店のプラスは継続しており、昨年来取り組んできた価格を含めたランチタイムメニューの見直しやサラダバー、パンバーの設置などがお客様にご好評を頂いたこと、またTV番組の露出効果による知名度のアップなどの結果、地方における新規顧客の増加やリピーターの来店頻度が上昇したことが要因となっております。今後も来店客数を増やしていくため、季節ごとの新規メニュー開発など、新たな施策に組み、売上をさらに伸ばしていきたいと考えております。

原材料の高騰の影響と値上げに関する お考えをお聞かせください

昨年来、金、石油、小麦などコモディティ市場の相場が急騰しております。中でも、コーヒー相場については、昨年5月以降130セントから一時は300セントを超えるなど、チャート上の踊り場もなく、一直線で上昇が続いている状態です。相場上昇の原因は、中国や生産国であるブラジルなど新興国の消費が拡大していること、コーヒー豆の在庫の減少が継続していること、投機資金

の流入が増加していることなどが挙げられます。現在、欧米の金融不安や消費減退がささやかれ、相場は若干下落傾向にありますが、まだ急騰前のほぼ倍近くの価格となっており、予断を許さない環境にあります。

そのような環境の中、当社では仕入の共通化などグループシナジー創出、シフト管理の徹底による人件費の削減によるコスト削減に努め、企業努力により対応を図っております。現時点で原材料の高騰を販売価格に転嫁する計画はなく、企業努力の範囲内で対応していく所存であります。今後も、上昇傾向にある現在の原材料の相場環境だけで販売価格を変更することは考えておりませんが、経済・社会など経営環境が大きく変化したり、原材料価格の高止まりが継続した場合には、将来的に店頭の販売価格の変更も検討せざるを得ない可能性はございます。

中長期の戦略についてお聞かせください

当社の中期的な事業拡大への基本戦略は、

- ①**既存事業の安定的な成長を図ることで、グループ全体の収益基盤の基礎を作ること**
- ②**グループのノウハウを融合させて、シナジー効果を創出していくこと**
- ③**事業領域を拡大するため、M&Aや海外での事業展**

開を積極的に検討すること

としております。

ブランド価値の向上に向けても、顧客価値、株主価値、社会的価値、従業員価値といった全てのステークホルダーの期待に応えるべく、CSR・環境活動を含め、さまざまな取り組みを行っていく所存です。

ドトールコーヒー、日本レストランシステムといった主要事業子会社による既存事業領域での安定成長を実現し、グループノウハウを融合させることでシナジー効果を発揮し、着実な成長を重ね、M&Aや海外事業展開を積極的に検討していくことで、企業価値の向上に努めますので、引続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役会長
山内 実

代表取締役社長
星野 正則

レストラン事業

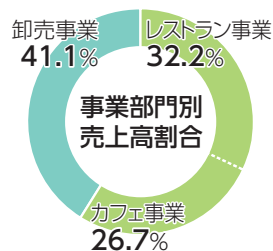
レストラン部門における新展開としましては、新業態の「イタリアンバールOTTO」を東京八重洲地下街にオープンしました。また、高級豆腐製造の強みを活かし引き続き「絶品純豆腐」の多店舗化に努めました。海外展開については、シンガポールでは事業展開の加速化のために業務提携先である「The Asian Kitchen Food Company Pte Ltd」を子会社化した他、「洋麺屋五右衛門」2号店を出店しました。また、中国上海では、営業基盤確立のため、上海ヒルズに「洋麺屋五右衛門」、「洋食寅八軒」の2店舗を出店した他、南京西路四季坊に「洋麺屋五右衛門」を出店しました。

カフェ事業

カフェ事業では、ヨーグルトテイストの冷たい飲み応えと相性の良いフルーツソースのサッパリした爽やかなおいしさが好評のフローズンドリンク「ヨーグルン3種」の発売、とりとねめらかな口だけでも上品なカップデザート「とろけるマンゴープリン」を夏季限定で発売するなど、夏にぴったりの商品の販売拡大に努めました。また、引続き好評を頂いているモーニングメニューの朝だけセットに、エビとツナサラダ ～ぷりぷりエビとシャキシャキ野菜～を新発売するなど、既存事業の強化とおいしさの追求に努めました。

卸売事業

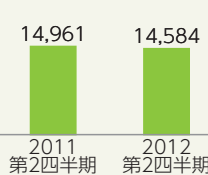
一般卸売事業では、スーパーなどの量販店向け商品の販売拡大、ドリップコーヒーやコーヒー原料の販路拡大に努めたほか、チルド飲料における定番商品の販売拡大と新商品の継続的な投入により、売上の拡大に努めました。また、韓国市場及び台湾市場においてもチルドコーヒー飲料の販売拡大に努め、業容の拡大を図ることができました。



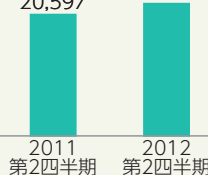
レストラン事業の売上高



カフェ事業の売上高



卸売事業の売上高



連結貸借対照表(要旨)

(単位: 百万円)

科 目	当第2四半期 連結会計期間末 2011年8月31日現在	前連結会計年度末 2011年2月28日現在
資産の部		
流動資産	33,221	28,967
固定資産	72,466	73,269
有形固定資産	36,005	36,028
無形固定資産	1,785	1,726
投資その他の資産	34,675	35,514
資産合計	105,687	102,236
負債の部		
流動負債	17,963	15,702
固定負債	5,907	5,163
負債合計	23,871	20,865
純資産の部		
株主資本	82,839	82,248
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	25,858	25,858
利益剰余金	57,825	57,233
自己株式	△ 1,844	△ 1,844
評価・換算差額等	△ 1,092	△ 933
その他有価証券評価差額金	△ 722	△ 669
繰延ヘッジ損益	△ 373	△ 262
為替換算調整勘定	3	△ 0
少数株主持分	68	55
純資産合計	81,816	81,370
負債及び純資産合計	105,687	102,236

連結損益計算書(要旨)

(単位: 百万円)

科 目	当第2四半期 連結累計期間 2011年 3月 1日から 2011年 8月31日まで	前第2四半期 連結累計期間 2010年 3月 1日から 2010年 8月31日まで
売上高	54,656	53,171
売上原価	22,785	20,974
売上総利益	31,870	32,196
販売費及び一般管理費	28,071	27,808
営業利益	3,798	4,387
営業外収益	270	300
営業外費用	67	76
経常利益	4,001	4,611
特別利益	62	119
特別損失	1,144	268
税金等調整前四半期純利益	2,919	4,463
法人税、住民税及び事業税	1,690	1,994
少数株主利益	0	4
少数株主損益調整前四半期純利益	1,229	—
四半期純利益	1,229	2,464

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位: 百万円)

科 目	当第2四半期 連結累計期間 2011年 3月 1日から 2011年 8月31日まで	前第2四半期 連結累計期間 2010年 3月 1日から 2010年 8月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,236	5,860
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,009	△ 2,719
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 417	△ 1,294
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 11	△ 17
現金及び現金同等物の増加額	1,798	1,829
現金及び現金同等物の期首残高	19,011	17,689
現金及び現金同等物の四半期末残高	20,810	19,519

トピックス・ ア・ラ・カルト

毎日がんばる人に、しっかりした朝食を

ドトールコーヒーの「朝だけセット」に新メニューが続々登場！

一日のはじまりでもある朝。特に朝食は頭と体が目覚めるための『ウォーミングアップ』であると考えます。コーヒーの香りでリラックスしながら今日のスケジュールを立てたり、活力をチャージしたり…。おもいおもいに、充実した時間を過ごしていただきたいのです。

“朝だけセット”は、「シンプルなのに一工夫された、毎日食べても飽きないメニュー」をコンセプトに、忙しくても手軽に朝食を摂れると大変ご好評いただいているメニューカテゴリーです。ドトールコーヒーショップで気軽に朝食習慣を始めましょう!!

Aセット 380円

ハムタマゴ
～ジャンボンハム
とタマゴサラダ～



カリッとしたトーストにジャンボンハムのしっかりとした食べ応え。タマゴサラダ、レタス、トマトのシンプルなおいしさは、朝にぴったりのサンドです。

Cセット 380円

ジャーマン
ドック

ドトールコーヒーショップの大ベストセラー商品。どこを切ってもオリジナル。パン、ソーセージ、マスタードの素材にとことんこだわった自信作です。



10/20 リニューアル!



Bセット(New) 420円

チキンとタマゴの
クラブハウスサンド

“朝だけセット”にボリューム感を、というお客様の声を反映した10月20日発売の新商品。トーストした特製パンを3枚使用し、やさしい甘みの薄焼きタマゴ、ベーコン、チキンスライスにレタスとトマトなど、吟味された具材をバランスよく美しく重ねた見た目もおいしい朝のクラブハウスサンドです。

DOCTOR



石窯パン工房サンメリー

地方へ進出!「福岡志免」と「札幌厚別」にオープン

サンメリーは、「おいしさと健康の追求を通して食文化の向上に貢献する」を企業理念として、天然酵母の本格派「石窯パン工房」を中心に、首都圏で地域に密着した店舗展開を図ることにより多くのお客様に親しまれ、着実な事業展開を行ってまいりました。

愛情を込め、100%店内焼成にこだわったサンメリーのパンは、内部までしっとりとした香ばしさを持ち、天然酵母や国産小麦など材料や製法にもこだわった自慢の商品を、九州と北海道のお客様にもお届けいたします。

天然酵母の本格派
石窯パン工房
SUNMERRY'S

DOCTOR

ドトールファン必見の情報満載!

ドトールコーヒーショップ“セミ”公式サイト「Facebook」スタート

ドトールコーヒー社員が運営するドトールコーヒーショップのFacebookページ。

忙しい毎日がんばっている皆様に、ドトールコーヒーショップで“ほっと一息”がとれない時間を過ごしていただきたい。1杯のおいしいコーヒーを通して、やすらぎと活力を提供したい。そんな気持ちで運営しております。新商品・新店舗の情報もいち早く皆様にお届けしますので、是非お立ち寄りください。

<http://www.facebook.com/Fun.Doutor.Fan>

コーヒーのカルチャーマガジン “It's My Times” WEB版はこちら

<http://www.doutor.co.jp/dcs/itsmytime/index.html>



D&Nカフェレストラン

こだわりのイタリアンカフェ & バール

東京・八重洲地下街に 「イタリアンバールOTTO」をオープン!

30席のこじんまりとした寛ぎの空間にスタンディングスペースからなるOTTO(オット)のこだわりメニューは、イタリア・エミリア-ロマーニャ地方の郷土料理「ピアディーナ」、イタリア風串焼き「スピエディーニ」、豊富なアンティパスト(50種類以上)など。バリスタが淹れるカフェも自慢です。さらにパーティタイムには、ワイン、10種のイタリアンハイボール、ヨーロッパで人気の氷点下のビール、ハイネケンエクストラコールド等、魅力的なドリンクとフードメニューが揃っています。



八重洲からはじまる一日に、寄り添った店でありたい

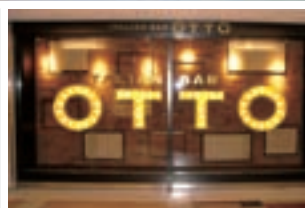
店名の由来である「OTTO」はイタリア語で数字の「8」を意味します。八重洲の「8」にちなみ、「八重洲からはじまる一日に、寄り添った店でありたい」、そんな思いを込めて名付けました。

あるときは、こだわりのカフェとイタリアンフードを楽しむ、ほっとしたひととき。あるときはワイン片手にイタリアの串料理スピエディーニを楽しむ時間。仕事の前も間も後も、どんなシーンでも。カフェのある時間、ワインのある時間、料理のある時間。それがOTTOです。

ヨーロッパイメージのシックなWEBサイトも開設



<http://www.italianbar-otto.com/>



D&Nコンフェクショナリー

東京から発信する新しいスイーツ

人気急上昇中! 「東京ぼーの」&「東京リッチ」

「Delicious & Natural」おいしく、自然を大切にしたいスイーツを笑顔とともに。D&Nコンフェクショナリーは、おいしさの追求こそが、お菓子への愛情の証と考え、ひとつひとつの作品(商品)に惜しみない努力と温かな愛情を注ぎ込み、すべての人々に最高の笑顔をお届けいたします。



本物のチーズをもっと手軽に

様々なテイストを創り出す厳選素材と、その素材に最適なチーズの配合。独自の製法が生み出す極上のクリーミーさと、基本にこだわった繊細で奥深い味わい。本物のチーズをどうぞご賞味ください。



大人から子供まで楽しめる 厳選素材のおいしさ

厳選されたまろやかなクリームチーズに、北海道十勝産カマンベールのコクをミックス!

そんなこだわりのチーズを、きめ細かくしっとり焼き上げたパウンドケーキでサンドしております。子どもから大人までおいしく楽しめる新しいスタイルのチーズケーキ「東京ぼーの」。



こだわる 「おいしさのクオリティ」

“全ての人のおいしい”を追求し続けること。“自然の恵み”を探索し続けること。そんな当たり前のことにこだわり続ける。当たり前だからこそ妥協しない。

D&N コンフェクショナリーは、ひとつひとつの商品の本質にこだわり、その“こだわり”がお客様の喜びに変わってゆくと信じております。

トピックス・
ア・ラ・カルト



株式会社ドトール・日レスホールディングス

設立 2007年10月1日
 資本金 10億円
 従業員数 2,404名(連結)
 本社 東京都渋谷区猿楽町10番11号
 03-5459-9178(代表)
 事務所 東京都渋谷区神南一丁目10番1号
 03-5459-9178(代表)
 U R L http://www.dnh.co.jp

●取締役

代表取締役会長 山内 実
 代表取締役社長 星野 正則
 常務取締役 木高 毅史
 取締役 大林 豁史
 取締役 鳥羽 豊
 取締役 稲森 六郎
 取締役 青木 幸隆
 取締役 津田 庄三
 (社外)取締役 財前 宏
 (社外)取締役 五味 淳吾

●監査役

監査役 郷井 義郎
 監査役 宮林 哲夫
 (社外)監査役 梶川 浩
 (社外)監査役 吉島 重鐵

株式会社ドトールコーヒー

設立 1962年4月
 資本金 111億41百万円
 本社 東京都渋谷区神南一丁目10番1号
 03-5459-9008
 U R L http://www.doutor.co.jp

日本レストランシステム株式会社

設立 1973年6月
 資本金 35億5百万円
 本社 東京都渋谷区猿楽町10番11号
 03-6743-7010
 U R L http://www.n-rs.co.jp

D&Nコンフェクショナリー株式会社

設立 2008年8月 資本金 4億80百万円

D&Nカフェレストラン株式会社

設立 2008年12月 資本金 2億円

株式会社サンメリー

設立 1969年7月 資本金 50百万円

D&Nインターナショナル株式会社

設立 2011年8月 資本金 50百万円

地域別店舗数

信越・北陸 23店舗

関西 208店舗

中国 31店舗

四国 10店舗

九州・沖縄 86店舗

〈海外〉

シンガポール 11店舗

中国・上海 3店舗

台湾 2店舗

北海道 35店舗

東北 85店舗

関東 1,285店舗

中部 142店舗

本誌掲載情報の詳細については
 当社WEBサイトを
 ご参照ください。

<http://www.dnh.co.jp>



ドトール日レス

検索

グループ事業の概況

ドトールコーヒー

ドトールコーヒーショップ、エクセルシオール カフェ、カフェラミルなど、
 飲料事業及びカフェ業態を中心に展開する事業会社

日本レストランシステム

洋麺屋 五右衛門、依屋 (TAWARA-YA)、さんるーむなど、
 直営レストラン及び物販・通販業態を中心に展開する事業会社

ドトール・日レスホールディングス

グループ全体の最適化を図るための企画・運営・管理等を行い、グループ全体の経営を統括する。

D&Nコンフェクショナリー

グループ間及び外部取引先に対し、
 高品質な商品を開発・販売する
 洋菓子製造・卸販売を行う事業会社

D&Nカフェレストラン

グループのノウハウを結集し、カフェと
 レストランの複合業態などグループの
 象徴となる業態を開発・運営する事業会社

サンメリー

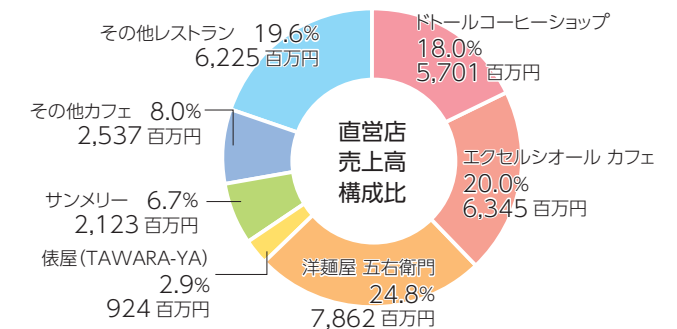
石窯パン工房サンメリーなどベーカリー・
 ショップ及びベーカリー&レストラン業態を
 中心に展開する事業会社

D&Nインターナショナル

グループの経営資源を最大限活かし、
 戦略立案から推進まで海外事業における
 リテールビジネスの経営を統括する

業態別店舗数 (2011年8月末)

業 態 名	全店	うちFC
ドトールコーヒーショップ	1,111	972
エクセルシオール カフェ	168	37
カフェ コロラド	86	84
洋麺屋 五右衛門	203	—
さんるーむ	28	—
依屋 (TAWARA-YA)	37	—
サンメリー	42	—
海外	16	—
その他	230	5
合計	1,921	1,098



※直営店の売上高は総売上高の58.9%を占めます。

株式の状況

発行可能株式総数	200,000,000株
発行済株式の総数	50,609,761株
株主数	36,668名

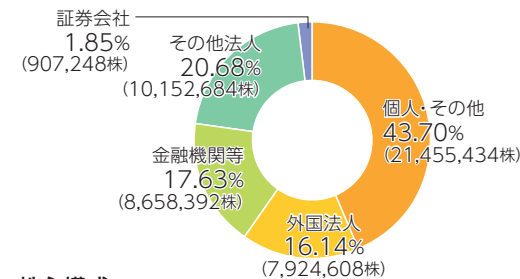
大株主

	持株数(千株)	持株比率(%)
大林 裕史	6,748	13.74
株式会社マダム・ヒロ	3,728	7.59
鳥羽 博道	2,430	4.95
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,335	4.76
株式会社バードフェザーリンク	2,300	4.68
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,411	2.87
日本たばこ産業株式会社	1,320	2.69
ザ チェース マンハッタン バンク エヌ エイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	1,082	2.20
ノーザントラスト カンパニー(エイブイエフ シー)サブ アカウント アメリカン クライアント	1,072	2.18
山内 実	924	1.88

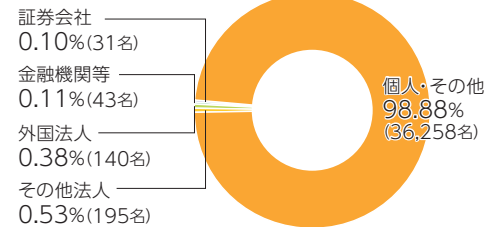
※持株比率は自己株式(1,511千株)を控除しております。

株式・株主分布

所有者別株式分布



株主構成



株主優待のご案内

対象株主と贈呈時期	優待制度の内容
毎年2月末日現在の株主名簿に記載された1単元(100株)以上保有の株主様を対象とさせていただきます。毎年6月の贈呈を予定しております。	100株以上500株未満保有 2,500円相当の商品 500株以上 4,500円相当の商品

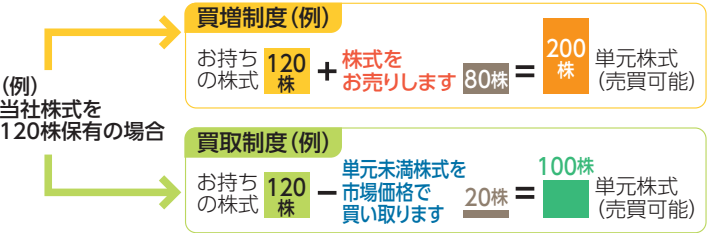
株式に関するお知らせ

● 単元未満株式の買取・買増について

単元未満株式(100株に満たない株式)の買取・買増を請求することができます。
当社では単元未満株式を買い取らせていただく「買取制度」と、不足分を買い増していただき単元株式(100株)にまとめる単元未満株式の「買増制度」をご利用いただけます。

● 配当金計算書について

配当金支払の際に送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。
なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、「配当金計算書」を同封させていただいております。
確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。



株式に関する手続き等について

お 手 続 き	お問い合わせ先	
	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
●株主名簿記載事項の変更 商号・氏名、住所、代理人選任、変更など ●単元未満株式の買取請求 ●単元未満株式の買増請求 その他手続きに関する事項 ●未払い配当金	口座を開設した証券会社にお問い合わせください。	みずほ信託銀行 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 TEL：0120-288-324
上記みずほ信託銀行のほか、みずほ銀行・みずほインベスターズ証券でもお取扱いいたします。		
お問い合わせ先(株主名簿管理人) 取次所	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 フリーダイヤル 0120-288-324 みずほ信託銀行株式会社 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店	

株 主 メ モ

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで	事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
定時株主総会	毎年5月に開催します。	郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
基準日	定時株主総会 2月末日 期末配当金 2月末日 中間配当金 8月31日 そのほか株主総会を開催する必要がある場合は、あらかじめ公告して基準日を定めます。	公告掲載方法	電子公告により行います。(ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。)
1単元の株式数	100株	電子公告アドレス	http://www.dnh.co.jp/ir/koukoku/index.html
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社		